

平成20年第2回土壌断面調査実技講習会

開催日：2008.9.12

開催地：多摩森林科学園

参加団体：岩手県、宮城県、茨城県、福井県、岐阜県、奈良県、和歌山県、高知県、熊本県、大分県、鹿児島県、環境総合テクノス、いであ株式会社
(計19名)

講師：森林総研本所11名(三浦、加藤、田中、荒木、森貞、小林、山田、伊藤、鶴川、竹内、高橋)、赤間。

都道府県や民間団体等の土壌調査担当者を対象に、土壌断面調査の実技講習会を行った。今回の主要テーマは「土壌型判定の仕組みを理解する」であった。このため、実技講習内容は土壌型を判定するための土壌断面調査という観点に基づき、グレード1の深さ1mの土壌断面調査における層位区分と一連の記載、特に土壌型判定に重要かつ判断が難しいとされる土壌構造に重点を置いた。

数日前の豪雨で足場がやや悪くはあったが、天候には恵まれずまずの土壌調査日和だった。参加者は、県の事業担当者12名の他、事業委託先の担当者7名が集まった。事前に幅2mの講習用断面を3断面準備しており、参加者は断面調査の経験に応じて3班に分かれ、それぞれ尾根部BB、谷部上部BD、谷部下部BDの断面に向かった。

最初に講師から代表断面調査の概要説明を受け、その後、参加者全員が幅2mの講習用断面に3人ずつ向かい同時に断面整形を行った。講習は断面整形、写真撮影、層位区分、断面スケッチを行った。短時間の昼食後には多摩自然科学館内で高橋立地環境研究領域長によるランチセミナー「土壌型判定の基礎」が行われた。午後前半は断面記載の続きを行い、土壌型判定にとって特に重要である、A0層、層位区分、土色、土壌構造、特記事項が特に詳細に説明された。現場からでも電話をして欲しい、携帯で断面写真を送ってもらっても構わないと講師が発言すると、受講者も熱心な様子で頷いていた。午後後半には、他断面を観察する班と土壌円筒採取実習班に分かれて実習を行った。

参加者の習熟度合いによって班分けをしたこと、幅2mの特別な講習用土壌断面を用いたことで、短時間ながら非常に密度の濃い講習になったと思われた。

なお、会場となった多摩科学園は先の大雨で林内各所で土砂崩壊が発生し、休園となっているにも関わらず、園のご配慮で開催にこぎ着けた。一日も早い復興を祈念したい。



断面記載方法の説明を受ける受講生



幅2 m以上の断面における実習



昼休みのミニ講習



赤間園長からの挨拶